

授業科目名	授業形態	単位数	担当教員名
教育方法論	講義	2	宇賀神 一

記載不要

【授業のテーマ及び到達目標】

テーマ:これからの社会を生きていく子どもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な、教育の方法や技術、情報機器および教材の活用に関する基礎的な知識や技能を身につける。

到達目標:

- ①教育方法の基礎的な理論と実践について説明することができる。
- ②子どもたちに必要な資質や能力を育成するための教育方法のあり方＝「主体的・対話的で深い学び」について記述することができる。
- ③教育の目的に適した教育技術を工夫することができる。
- ④情報機器および教材の活用に関する基本的な知識・技能を説明することができる。

【授業の概要】

まず、教育方法・教育技術の前提としての「学習(学び)」に関する基本的な事項について学ぶ。つぎに、授業の構成要素や教育方法・技術に関する基礎的事項、教育評価の意義や技能について理解を深める。そして、これからの教育における新しい方法＝情報機器の活用などについて基礎的な知識や技能を身につける。

授業はレジュメを用いながら、各回のテーマを中心に講義を行うとともに、必要に応じて映像資料を用いる。なお、講義内容や進度は、受講生の理解度や授業態度・姿勢に応じ変更することがある。

【全体の授業計画・内容】

1. オリエンテーション

事前学修課題:シラバスの熟読のうえ、現時点での教育方法についての認識を整理する。【1時間】

事後学修課題:配布された資料を各自でまとめ、理解する。【1時間】

2. 学習とはなにか① —代表的な学習の考え方—

事前学修課題:ニュースや新聞などの教育・子ども・学校に関する記事に関心を持ち、教育方法の基礎的な理論と実践について情報を得る。【1時間】

事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】

3. 学習とはなにか② —学習理論に基づく学習方法—

事前学修課題:ニュースや新聞などの教育・子ども・学校に関する記事に関心を持ち、教育方法の基礎的な理論と実践について情報を得る。【1時間】

事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】

4. 学習とはなにか③ —学習における他者・集団—

事前学修課題:ニュースや新聞などの教育・子ども・学校に関する記事に関心を持ち、教育方法の基礎的な理論と実践について情報を得る。【1時間】

事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】

5. 学力とはなにか① —学力の考え方—

事前学修課題:教育や子どものことについて書かれた岩波新書や中公新書などの新書本を読み、教育方法のあり方についての理解を深める。【1時間】

事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】
6. 学力とはなにか② —学力と人間性— 事前学修課題:教育や子どものことについて書かれた岩波新書や中公新書などの新書本を読み、教育方法のあり方についての理解を深める。【1時間】 事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】
7. 授業の創造① —授業の構成要素— 事前学修課題:教育や子どものことについて書かれた岩波新書や中公新書などの新書本を読み、教育方法のあり方についての理解を深める。【1時間】 事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】
8. 授業の創造② —教育方法・技術に関する基礎的・基本的な事項— 事前学修課題:教育や子どものことについて書かれた岩波新書や中公新書などの新書本を読み、教育方法のあり方についての理解を深める。【1時間】 事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】
9. 授業の創造③ —教材づくり・教材研究— 事前学修課題:教育や子どものことについて書かれた岩波新書や中公新書などの新書本を読み、教育方法のあり方についての理解を深める。【1時間】 事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】
10. 授業の創造④ —情報機器の活用および情報活用能力の育成— 事前学修課題:教育や子どものことについて書かれた岩波新書や中公新書などの新書本を読み、教育方法のあり方についての理解を深める。【1時間】 事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】
11. 教育評価とはなにか① —評価の種類と機能— 事前学修課題:児童館や子育て支援サークルなどでの保育ボランティアなど、たくさんの経験を積極的に積み、教育の目的に適した教育技術についての理解を深める。【1時間】 事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】
12. 教育評価とはなにか② —新しい評価の方法と実践記録— 事前学修課題:児童館や子育て支援サークルなどでの保育ボランティアなど、たくさんの経験を積極的に積み、教育の目的に適した教育技術についての理解を深める。【1時間】 事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】
13. 教科外教育活動の構想① —集団づくり・自治活動— 事前学修課題:児童館や子育て支援サークルなどでの保育ボランティアなど、たくさんの経験を積極的に積み、教育の目的に適した教育技術についての理解を深める。【1時間】 事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】
14. 教科外教育活動の構想② —人権学習・道徳教育— 事前学修課題:児童館や子育て支援サークルなどでの保育ボランティアなど、たくさんの経験を積極的に積み、情報機器および教材の活用に関する基本的な知識・技能についての理解を深める。【1時間】 事後学修課題:授業に関する疑問点を整理する。ニュースや新聞記事を学んだことをもとに読み解く。【1時間】
15. 試験およびまとめ 事前学修課題:前回までの授業のレジュメをふりかえり、理解を深める。【1時間】 事後学修課題:まとめの内容をふりかえる。【1時間】
【学習のあり方】 教育者・保育者は子どもの育ちに責任があるということ、教育者・保育者である自身の行動が子どもに対して善

悪交々の多大なる影響を与えることを自覚すること。その上で、子どもが育っていくことに自分がどのように関わっていくことができるのかを想定しながら、授業やグループワークに参加してください。

すべてに出席するのが原則です。遅刻・欠席は「参加度合」として不適切と判断します。健康管理や早めの行動を心がけてください。疑問や質問は授業中でも授業後でも必ずそのときに解決する習慣をつけましょう。

【成績評価】

課題提出などを含む授業への参加態度(20%)、試験(80%)をもとに総合的に評価する。

【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

【テキスト】

レジュメおよび資料を配布する。

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

【実務経験の有無】